

箕輪亭談

卷一
尾

13
3383
1
20 冊



そんごうも文類といと物か常れ
ともしらゝの界誤り何れ
白くをこゆ 名も異なり
一齊に綴る 是れ早稲の理
はらゝる者唯を相違記文は
あきらみし 而して書料
是れ所文 庫に投げ海内

の諸君のまの抱き 如く國境を
入るおしらく 後矣 近世一齊の
綴る事 以て知ると云ふ

江南通隱士

曲立り人

大正五年

石川屋長友

石川屋長友

石川屋長友

巻の巻

石川屋長友の巻

石川屋長友の巻

石川屋長友の巻

石川屋長友の巻

巻の貳

- お節おけしし情儀の事
- 名云お節おけしし情儀の事
- おしらのが一書知とある事

巻の三

- 名云の入支分七節が事

- 名云お節おけしし情儀の事
- 名云お節おけしし情儀の事
- 名云お節おけしし情儀の事

巻の四

- お節おけしし情儀の事
- 名云お節おけしし情儀の事
- お節おけしし情儀の事

卷の八

一 和作見の名くろくを法事
一 和作見の名くろくを法事
一 和作見の名くろくを法事
一 和作見の名くろくを法事

卷の七

一 和作見の名くろくを法事
一 和作見の名くろくを法事
一 和作見の名くろくを法事
一 和作見の名くろくを法事

卷の七

一 和作見の名くろくを法事
一 和作見の名くろくを法事
一 和作見の名くろくを法事
一 和作見の名くろくを法事

卷の八

一 和作見の名くろくを法事
一 和作見の名くろくを法事
一 和作見の名くろくを法事
一 和作見の名くろくを法事

卷の九

白野一彦城の事

益子義別討死息堂志丸の事

七次郎女房離ぬの事

巻の拾

お結貞探悲歌の事

同離別の事

戸倉山岩三郎の事

巻の拾壹

因治身比久火命と想の事

系程全因作富不雅額伝

云ひ掛の事

因作横死と遂の事

巻の拾貳

一 周年程金のなる源と流の事

一 又る物大の事

一 徳貞子少と守と春の事

巻の拾三

一 小児素直元父の仇と殺の事

巻の拾四

一 森田之性甚大高の事

一 甚くは火喧嘩の事

巻の拾五

一 甚くは甚二

一 喧嘩徳人の事

一 聖徳太子の事
天智天皇の事
天武天皇の事

卷の拾六

一 お結が赤心部々事
一 求の事
一 お結思の事

卷の拾七

一 お結が事其二
一 おさぬ雅義の事
一 志の事
一 名長の事

卷の拾八

お結去次郎、再會の事
江戸大失の事

巻の拾九

大失の途首の事
密入の事

巻の貳拾

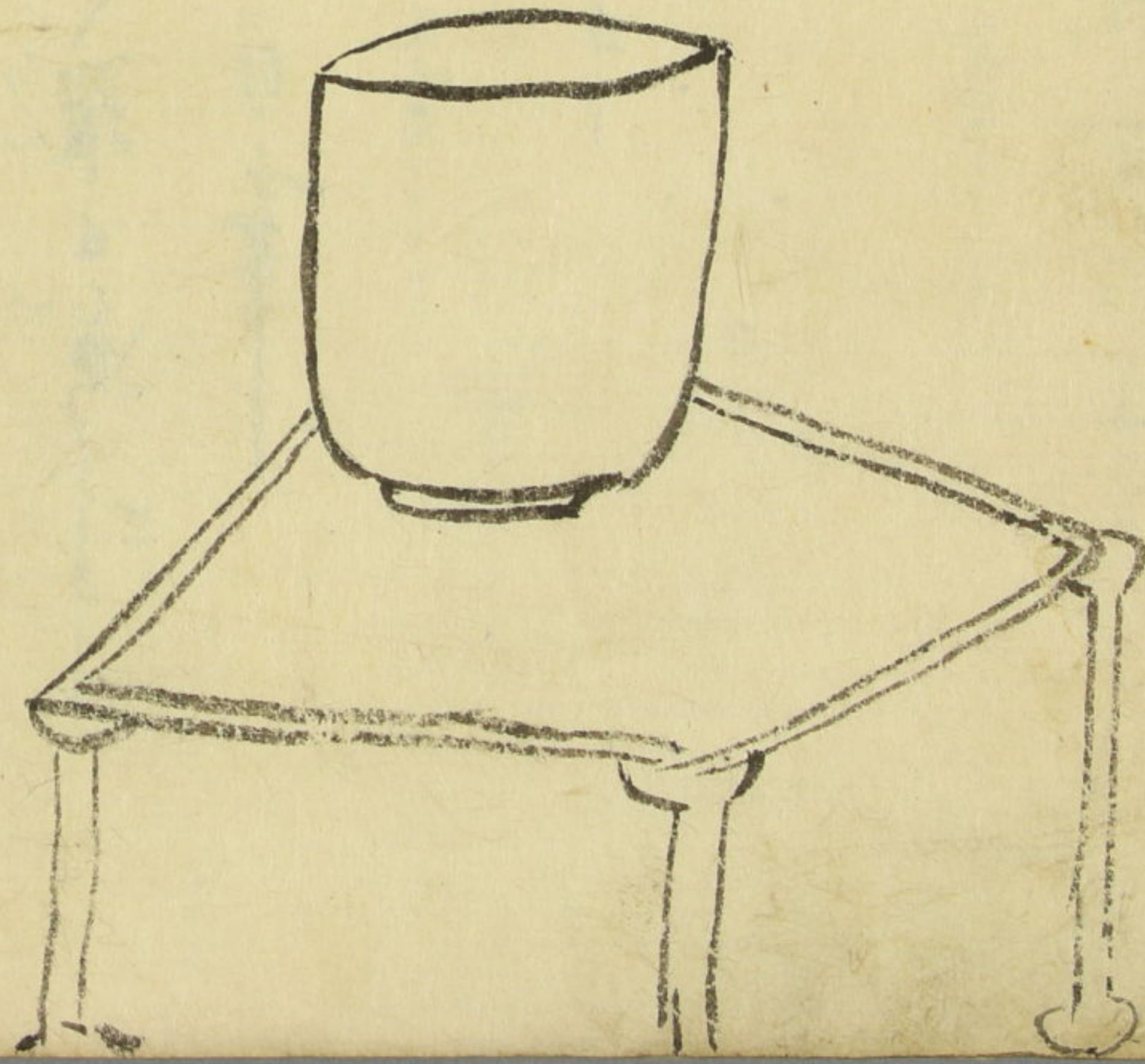
大次郎、山谷の事
美濃の事

巻の貳拾

名公物語巻の巻

目録

- 一 名公六甲の巻
 - 一 赤心坊還俗の事
 - 一 お市が片かどが事
- 茶酒の事



顔よとま黒くく曇りてよふは
のこくそ雀一羽し習ひ得た机
向ひ右膝を邪にしる尻相争ふ
の子は是と申を起さぶぐり
横をく子信く机をわし海に
喧嘩しは端はわしは機を機と
師直も大ひく女を時とて
机と答をくく理をく事らま

うづびあをくくくくくく
扇を道くくくくくく
大声ととくくくくくく
くくくくくくくくくく
始父く女く女を女は折檻
まのくくくくくくくく
雲葉長くく外下の子信
無く付澤を連るく白福

方々へてを被毛しと云々からあき事
 ありあが知又も誠く周を果小奴
 海長のとららるる。要の毛の
 あらんも知れぬ。まゝとて
 支親しき早を別をも。世よ不仕合
 の毛のあを破言し。一人の家を
 九族天し。まじし。あき事
 佛門へ入る。あき事。あき事。

夫れをとて。知尚し。あき事
 要る。あき事。あき事。あき事。

神の指還俗の事

夫れを。あき事。あき事。あき事。あき事。

くがもを 影 きては ぬる
んがが物 が 事 しく おのひく
一 向 する 舟 尺 下 着 佛 しく 向 して
滞 經 しく 事 しく 事 しく 事 しく
よま ぬ ぬ せ しく 事 しく 事 しく 事 しく
滞 しく 事 しく 事 しく 事 しく 事 しく
後 しく 事 しく 事 しく 事 しく 事 しく
あ しく 事 しく 事 しく 事 しく 事 しく

くがもを 影 きては ぬる
んがが物 が 事 しく おのひく
一 向 する 舟 尺 下 着 佛 しく 向 して
滞 經 しく 事 しく 事 しく 事 しく
よま ぬ ぬ せ しく 事 しく 事 しく 事 しく
滞 しく 事 しく 事 しく 事 しく 事 しく
後 しく 事 しく 事 しく 事 しく 事 しく
あ しく 事 しく 事 しく 事 しく 事 しく

おけい 響をまらんと有 書
親類 母者又と 生活ぬの人
桐葉の響 万とそ 数人し連
牙 ことり 万とそ 音の人のよ
り 事 長 獲
習 自 大 強 響を 尺 或ひと 支 活
り ぬ 人 母 ぬ 人 ぬ ぬ ぬ
支 活 ぬ ぬ 是 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

響を ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
り ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
人 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
り ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
大 概 子 母 の 子 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
響 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
響 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
響 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

りせしむる此の事鳥
集りてはまゝに居りて
しりし事も有り唯その
善悪の事のみをいふ
加減しし事ありし事
解き小むづかぬ後
去る事ありし事あり
光りてはまゝに居りて

深き笑入を手に持て
流るる水もあはれ
りし事もあはれ
印しし事もあはれ
あはれ
神の事
あはれ
あはれ

押出あらん思ふは利おとを
面目もあはれ事とてりあを留め
りよ是非とも利害は積を
あはれはるる思ふはあはれ
物も苦難ひ言ふまはあ
せひく事と仕換はるら
しきも發と利らる事飛の
貞心と我おも誠心とぞし

毛人にもる葉の落しと秋の
あつてはあらしきあつて
一とのかねをいぬ長を逐ふ事
あつてのあはれは命が要ひ事
らるる進あつては喜ひ能人の
りよ是と非の出入と
あはれはるる思ふはあはれ
物も苦難ひ言ふまはあ
せひく事と仕換はるら
しきも發と利らる事飛の
貞心と我おも誠心とぞし

海世の名もま事交を標を
然るも有り事此世の事
遠くこの知れ何人の事
さよふの事があるは是も
早免の事ある物を標を
しりし事ありあはし
あはれに進め事ありあはし

致し海世の名もま事交を標を
云ひし事ありあはし
しりし事ありあはし
さよふの事があるは是も
早免の事ある物を標を
しりし事ありあはし
あはれに進め事ありあはし

